

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称      博士（医 学）      氏 名 新垣 雅人

	主査	准教授	濱田 淳一
審査担当者	副査	教 授	野口 昌幸
	副査	教 授	武富 紹信
	副査	教 授	平野 聡

### 学 位 論 文 題 名

Studies on a cancer-testis antigen CSTF2 as a novel biomarker for lung cancer  
(肺癌における新たなバイオマーカーとしての癌精巣抗原 CSTF2 の研究)

本研究は、癌精巣抗原 CSTF2 の発現および機能解析を行い、肺癌の予後マーカーおよび新規治療標的分子としての CSTF2 の有用性を報告したものである。体調不良により欠席された副査の野口教授とは後日論文および審査の内容について協議することとし、学位審査は3名の審査員により行われた。申請者の発表後、以下の質疑応答が行われた。

副査 武富教授より、本研究のきっかけとなったcDNAマイクロアレイ解析の結果から数多くの解析候補遺伝子が挙っていたが、その中からCSTF遺伝子を選択した理由について質問があった。また、CSTF2以外のCleavage stimulation factor複合体を構成する蛋白質であるCSTF1およびCSTF3の癌細胞および正常臓器における発現について質問があった。次に、濱田准教授より、肺癌以外の癌種におけるCSTF2の発現について質問があった。また、CSTF2が細胞免疫染色において核に発現しているが、核の中での局在に関する機能についての質問があった。最後に、副査 平野教授より、組織マイクロアレイを用いた非小細胞肺癌患者の予後解析において、年齢が独立した予後不良因子となっている理由について質問があった。また、本研究で得られた知見を臨床の場で活かす方策および展望について意見を求められた。

いずれの質問に対しても申請者は自らの研究内容やその過程で得られた知見、文献的考察を交えて概ね適切に回答した。

今回の研究により、CSTF2 は肺癌および精巣に特異的に発現していること、肺癌組織でのCSTF2過剰発現は肺癌患者の予後に関与しており術後補助化学療法の要否を決定する指標となりうること、ならびにCSTF2 は非小細胞肺癌の分子標的として有用であることが示唆された。

後日、野口教授の意見を伺った結果、審査員一同はこれらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士（医学）の学位を授与されるのに十分な資格を有すると判定した。